

# The Hop Step Times

## The First Issue

### TOP NEWS

## ホームルームに緊張が走る！

10月24日(火)、ほっぷのプログラム「ホームルーム」の時間にて、本プログラムに対する意識改革をすべきだと一部のメンバーが強く主張したため、一時緊張した空気が流れた。本プログラムはほっぷの利用者の主体性を育むため、スタッフの介入や指示がない状況にして、場の進行役にファシリテーターを任命し、そのファシリテーターを中心に利用者全員でその時間帯に何をするかを決めるというプログラムである。今回ファシリテーターに任命されたA氏は、ほっぷの経歴も浅いため、任命された当初は不安な表情であったが、他のメンバーの協力も得て、本プログラム歴最短の経過時間で「ババ抜き」に決定するはずだった。しかし、B氏の反対によってその決定は白紙に戻ったのである。B氏の反対意見は次のとおりである。「これまで本プログラムにおいて、発言する利用者が限られ、またホームルームがただのレクリエーション回に成り下がっている。そもそも主体性を育む

ために行っているプログラムが、情性によって育まれていない。その証拠は本プログラム歴最短の経過時間であることだ。本プログラムは「何をして遊ぶか」を決めるプログラムではなく、「復職のために主体性をどうやって育むか」ではないのか。このままでは本プログラムの存続が危ぶまれる。」この強い主張のため、場の空気に緊張が走った。その緊張感の中、引き続きB氏の演説は続いた。「何もレクリエーションを否定はしていない。大事なのは、利用者一人一人が、このプログラム中に、復職の為に何が大切かを意識しながら取り組むことである。その一つとしてコミュニケーションが大事なのであればレクリエーションでもいい。復職するための目的を意識することが大切だ。」その演説の流れでホームルームの意識改革のため、「ホームルーム」について利用者全員で意識を共有し合った。



ほっぷスタッフのO氏はこう語る。「一時はホームルームがどうなるかと思った。B氏を羽交い絞めにしてでも演説を止めようかと思った。」また他の利用者メンバーであるC氏はこう語る「僕は何でもいいんですよ。ただ話し合いの時間が無駄だと

思うだけで、その時間が少しでも早く終われば。黙っていることはいけないのですか？」様々な思いが交差する中、この回で決まったことは「一人一回は発言する」ことのみ。この決定で利用者の意識が変わることが出来たことを祈るのみである。

## Good Program Ranking (プログラムランキング)

直近3ヶ月(9-11月)で最もよかったプログラムは何か。通所メンバー向けに行ったアンケートの結果を発表する。「振り返りが出来た」、「自身の課題に挑戦出来た」等、各自のコメントも併せて紹介するものである。

### 1位「ホームルーム」(10月26日)

プログラム時間内に何をしたいか、どのようにしたらそれが叶えられるか、メンバー間の話し合いにより内容を決定し、実践する自由度の高いプログラム。今月のトピック「ホームルームに緊張が走る！」も併せて読みたい。

### 2位「心理士講座 de ビタゴラスイッチ」(10月25日)

心理士のS氏による講座。今回のテーマはグループ対抗ビタゴラス装置作り。集団の中で、自身の思考や行動のクセ、他者との関わり方に気付けるか？  
成功条件は「50秒間ビー玉が転がり続ける装置を、ほっぷルーム内にあるものを使って作ること」。各グループ白熱し、気付きも多かった。(写真)

### 3位「集団OT」(11月25日)

作業療法士のT氏による講座。自分が集団の中で、どのような役割を担い、どのような動きをするか、どのような事にストレスを感じるのか…与えられる作業課題(仕事)を通じて、気付いていくプログラム。今回のポイントは厳しめの制限時間、そして他チームに検品を依頼し、成品を上司に納品する点だった。

### 皆のコメント

- ・最近レクリエーションをする時間のようになくなってしまっていたホームルームについて、立ち止まり、プログラムの意義とファシリテーターの役割について深く議論できた。有意義な時間だった。(Aさん)
- ・ホームルームのバチバチ感が心地良かった。もっとバチバチしたい。(Bさん)
- ・普段「賛成」と思っても意見を言う事が出来なかったが、何度もホームルームについて議題に上がる内、積極的に発言でき、得るものがあった。(Cさん)
- ・ビタゴラスイッチの作業中は、各自がパーツをバラバラに作る為、声掛けの大切さを痛感した。集中し過ぎると周りが見えなくなる自分のクセを再認識出来た。(Fさん)
- ・集団作業の中で試してみた事が、メンバーからのフィードバックで好評で良かった。(Dさん)
- ・複数課題で、メンバーに仕事の抱え込みグセを指摘され、初めて自覚できた。今後のグループワークに活かそう。(Eさん)



## Recent of Rework Program (リワークプログラムの紹介)

11月15日、リワークメンバーがプログラムで作成した「児童・思春期デイケアJOY」(以下JOY)用のベンチキッドに問題が発生し、リコールとしてリワークメンバーに返品される事件が起こった。今回のプログラムは、小学4年生から中学3年生の目線に立って作成キットを作ることを通して、「お客様目線の理解を深めること」を目的としたプログラムである。つまり、「JOYに通所している小学4年生から中学3年生の子供たちが作れるように」木材の加工、設計図の作成を行わないといけない。そのため「子供でも作れるベンチ」を追求する必要があるが、JOYの子供たちが作成するにあたって問題が発生した。穴位置がずれていて、椅子のフレーム部分と足の一本がうまく取り付けできなかったため、JOYがJOYベンチキット作成チームにリコールを要求したのだ。メンバーの反応次の通りである。

「どうしてこうなったのだろうか？」(I氏)「修正方法を考えなければ…」(B氏) 対応は様々だが、『仕事』として請け負ったものが、手戻りすることに一様にショックを感じていた。「これが職場だったら、責任問題になります。真摯に受け止めて、早急に対応します。」とリーダーのJ氏は語り、ほかのメンバーも率先して修理に取り組む姿が印象的であった。



## The Teachings of

### Ms.T(T部長の教え)

個人作業、集団作業で我々に接する作業療法士のT氏。ここではT部長の教えを紹介する。「病気に関わらず、365日、毎日調子が良いとは限らない。調子の悪い時は悪い時なりに、どう乗り切るかが大切」「出来る事=良いこと」ではない。「出来るようになりましょう」でもない。自分の特性や特徴を把握すること。その上で調子の良い時悪い時、どんな形で仕事に影響があるのか、「知る」ことが大事

## HOT Words!

### by Mr.S(心理士S氏の金言)

心理士S氏の講義やワークに溢れる金言を紹介。(11月22日心理士講座より)  
「感情を理解するにはまず『怒り』を知ることから」「怒り散らす人=赤ちゃん。怒りに気付かない人も、ある意味赤ちゃん」  
「怒りは良くも悪くも大事。マイナスイオンだと蓋をし過ぎるのではなく、怒りを認識すること」